

薬剤師の

## ちょっと楽に立つお話

今月のTOPICS

いま、話題です! //

## 特集「かかりつけ薬剤師・薬局」

上田薬剤師会では以前から何度もこのページでお伝えし続けてきた「かかりつけ薬剤師・薬局」。現在、会員薬局の現場では当たり前に実践している「かかりつけ薬剤師・薬局」の仕事の内容を、薬剤師の水野瞳さんに聞きました。



## ふだん気を付けていること

患者さんの話をとにかくよく聞くようにしています。そうすれば、いろんなことに気付くことができます。

## 残薬の調整

厚労省が「かかりつけ薬剤師・薬局」に期待する役割に「残薬のチェック」があります。薬が余ってしまう理由の多くは、飲むのを忘れてしまう→忘れたことを先生に言えないまま定量を処方してもらう→さらに余ってしまう→というものです。



薬が余っている場合は、医療機関に確認をとり、量を少なく調整して調剤します。そして、どうしたら飲み忘れをなくせるか、生活スタイルなどに合わせ患者さんと一緒に飲み方を考えたりします。

## 重複の防止

複数の先生にかかっていると、同じような薬が重なる場合があります。胃薬や痛み止めは重なることが多いです。先生にお薬手帳を見せたかどうか聞き、医療機関に問い合わせをします。

市販薬の場合も、かかりつけ薬剤師・薬局なら薬歴(薬の記録)でチェックできます。先日、塗り薬を買いに来られた方に、この間処方された軟膏使えますよ、と教えてあげたら喜ばれました。

薬を多く販売した方が店の利益になるかもしれません、患者さんのためにはなりません。患者さんの話をよく聞いて「患者さんにとって何がベストなのか?」常に考え、より良い情報を提供できるよう心がけています。

## 相談には全力で応えます!

相談されてわからないことは、わかる人に聞くのはもちろん、インターネットで調べたり、研修会などに参加して勉強するなど、お応えできるよう全力を尽くします。

患者さんに名前を覚えてもらって、頼りにされるとうれしいですね。もっとがんばらなくちゃって思います!

身边に「かかりつけ薬剤師・薬局」をつくり  
ぜひ活用してください!

第33回 上田薬剤師会主催  
「薬草・ハーブに親しむ会」開催!

7月26日(日) 10:00~13:30 ※雨天決行

見て、触れて、味わう、自然の優しさ。菅平高原にある標高1,400m、約10haの敷地で、約40種類のハーブと100種類の薬草を楽しみましょう。

会場 長野県菅平薬草栽培試験地(あづまや高原ホテル近く)  
講演会 「身近な薬草入門」(11:00~) 講師:高野昭人先生(昭和薬科大学 教授)  
実演コーナー ・薬草オリエンテーリング ・ラベンダースティック教室  
・ハーブティー・薬味酒 試飲会 ・薬膳粥の試食会 ・お香作り体験

▶詳しくは会員薬局または事務局までお問い合わせください

参加無料

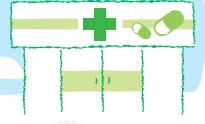
はい、お答えします!

Q. どこかの薬局で無資格者が処方せん調剤をしていたことがニュースになっているのを見ました。上田地域ではどうなっていますか?(青木村 59歳 男性)

A. 報道記事を読まれて、不安になられた方も多いと思います。

上田薬剤師会では、調剤行為はすべて薬剤師が行うものと考えており、会員薬局にもそのように指導しています。また、薬局内では薬剤師とそれ以外の者(事務員、登録販売者等)の区別がつくように、制服や名札などで見分けがつくようにし、さらに事務員等が白衣を着るのは好ましくないと考えています。

地域の皆さんのがんばるために  
さまざまな活動をしている  
上田薬剤師会から、  
健やかな毎日をつくるために  
ちょっと役立つお話を  
お届けしていきます。  
毎月「第2土曜日」の  
週刊うえだを、どうぞお楽しみに!



患者さんにインタビュー!  
山口尊司さん(上田市 74歳)

「かかりつけ薬剤師・薬局」って知りました?

前に住んでいたところでは、薬局とのこんな付き合いはなかった。「かかりつけ薬剤師・薬局」という言葉も、上田に来てから初めて知りました。

他へ行くより気持ちの上で「トク」した感じがします。何種類も組み合わせて飲むのが面倒だとつぶやいたら、同じ袋に入ってくれたりしてね。ありがとうございます。

「かかりつけ薬剤師・薬局」にひとこと

安心して老いを迎えるまちづくりに欠かせない3本柱は「医療」と「介護」と「住民(自助)」。そこには、地域に根差した「安心薬局」が不可欠です。お上が決めなくても、上田の人は「かかりつけ薬剤師・薬局」を自分で自然に選んでいるでしょう。

## +「地域のための」かかりつけ薬剤師・薬局であれ

上田薬剤師会会長 飯島康典



上田薬剤師会は40年以上前から上田市、東御市、小県郡の地域と連携をはかりながら医薬品、介護用品(医療材料、医療雑貨、雑貨等)等の安定供給を目指し、地域社会活動や薬と健康に関する相談等を行ってきました。

## 〈上田薬剤師会 これまでの主な取り組み〉

- ◆地域の小中高生に向けて、薬剤師による薬物乱用防止の授業を開始(昭和62年~)。
- ◆「休日当番薬局制」を始め(平成5年)、24時間365日の対応体制を構築。
- ◆「薬草・ハーブに親しむ会」開催 ◆JA信州うえだ有線放送番組「薬のあれこれ」出演
- ◆毒物劇物取扱者試験準備講習会の開催 etc.

会員薬局では一般用医薬品、介護用品(医療材料、医療雑貨、雑貨等)等についてもあるべくたくさんの種類を置いておくようにしています。量販店は「売れ筋」しか置きませんが、地域の薬局では、地域の皆さんのニーズに合った価格帯、品揃えが必要です。

薬局を「ビジネス」でやるところは、もうからなくなったらまず地域のことを切るでしょう。だから、地域の皆さんのためには、地域の薬剤師・薬局が薬と健康に関する相談や、地域社会活動をしなければならないと思っています。

これからもさまざまな活動を継続し、24時間365日、地域の皆さんに安心・安全に医薬品や介護用品(医療材料、医療雑貨、雑貨等)等を供給することを第一に考え、ますます地域の皆さんのセルフケアを推進できる「かかりつけ薬剤師・薬局」を目指してまいります。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に薬剤師がお答えします。お薬に対する素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。

宛先

〒386-0012  
上田市中央6-3-41  
週刊うえだ  
「はい、お答えします!」係  
weekly-ueda  
@po3.ueda.ne.jp  
FAX 0268-22-6201